

# 都市

開館 30 周年記念  
コレクション展

観覧無料

# モニュメント カタルクトロフ

2019

1/26(土) ▶ 4/14(日)

前期：1/26(土) ▶ 3/3(日) 後期：3/5(火) ▶ 4/14(日)

川崎市市民ミュージアム アートギャラリー 1,2,3



都市とはそこに生きる人々の記憶が共有される場です。その記憶は人災や自然災害などの大きな変化によって創り出され、モノメント化されて、その場に記録されていきます。本展では、当館の設立コンセプトである「都市と人間」をテーマに、《都市×モノメント×カタストロフィ》をキーワードとして、川崎・パリ・東京の都市像に焦点を当てます。

アトラクション1  
《川崎×工場×開発》

明治時代より工場用地として開発が進んだ川崎は、現在に至るまで工業都市として発展を遂げてきました。しかし、その一方で昭和20年代には工場排水による公害問題が発生しています。

アトラクション2  
《パリ×建築×コミュニティ》

フランスの首都・パリを形作るものとして、街中にたたくむ建造物が挙げられます。それらは都市開発や1871年に発生したパリ・コミュンによって破壊され、人々が抱く都市像もまた移り変わっていきました。

アトラクション3  
《東京×娯楽×関東大震災》

江戸の面影を残しつつ娯楽の場として発展していく明治の東京。さまざまな名所図や開化絵に描かれるその景観は、大正12(1923)年に発生した関東大震災によって一変します。

地層のように折り重なる記憶が綾なす三つの都市の姿を、市民ミュージアムの多様な収蔵品からご紹介いたします。

※会期中、一部作品の展示替えを行います



1. ウジェーヌ・アジェ《オー通り・レイヌール通りとパシー河岸の間》鶏卵紙、1901年【後期展示】 2. 《東京浅草凌雲閣真景》石版多色、明治23(1890)年【通期展示】 3. アシーユ・キネ《パリの眺望》鶏卵紙、1870年代【前期展示】 4. 《横浜精糖株式会社》コロタイプ印刷、明治時代【通期展示】 5. 楊洲周延《かすり揃ひ開花の散髪》木版多色、明治11(1878)年【前期展示】

「武蔵小杉」駅北口1番乗り場からバスで約10分、「市民ミュージアム前」下車すぐ  
※当館に専用駐車場はありません。お車でお越しの方は等々力緑地内駐車場(有料)をご利用ください。駐車料金の割引等はございません。



関連イベント

学芸員による展示解説

- 2月16日(土)・2月23日(土)
- 3月23日(土)・4月6日(土)
- 2F アートギャラリー
- 当日直接会場へ
- 各日13時〜(30分程度)

視覚障害者をつくる

美術鑑賞ワークショップ

- 3月3日(日)13時〜15時
- 参加無料/定員14名/要事前申込(応募多数の場合は抽選)
- 2F アートギャラリー
- 2月3日(日)より当館HPにて受付開始/2月20日(水)締切